

株式会社 九州クボタ化成

1.事業概要

住所	〒820-0062 福岡県飯塚市目尾字境田 515-10	
従業員数	39名 (2019年12月現在)	
敷地面積	14,506 m ²	
事業内容	硬質ポリ塩化ビニル管・水道用ポリエチレン管・電力ケーブル保護管等の製造	

主要製品

水道用 VP管・HI・VP管(耐衝撃性管)・SGR-NA管(ゴム輪受口付)・HI・SGR-NA管
 一般用 VP管・HI・VP管・SGR-NA管・HI・VP系 SGR-NA管・VH系 SGR-NA管
 無圧用 VU管(薄肉管)
 電線用 VE管・耐候二層電線管(電線管)
 下水用 SGR-NC管(下水道用)
 スーパー・フレックス(電力ケーブル保護管)
 V・フレックス(難燃性波付硬質塩化ビニル管)
 水道用ポリエチレン管(二層管)
 水道配水用ポリエチレンパイプ・片受けパイプ加工

工場変遷(沿革)

1980年	操業開始 JIS表示工場として認可(JIS K 6741・K 6742・C 8430)
1981年	日本水道協会の検査工場として認可 日本下水道協会の下水道用機材製造工場として認可
1984年	日本水道協会の指定検査工場として認可
1985年	SGR-NA(ゴム輪受口付き管)生産開始
1988年	スーパー・フレックス(塩ビ強化可とう管)生産開始
1990年	V・フレックス(難燃性波付硬質塩化ビニル管)生産開始
1992年	水道用ポリエチレン管 日本水道協会の指定検査工場として認可
1993年	ISO9001 認証登録(日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -RA -210)
1994年	V・フレックス(難燃性波付硬質塩化ビニル管) JIS C 3653(施工方法)管種に認定
1996年	本社事務所兼厚生棟新築及び工場棟増築竣工
1999年	ISO9001 認証登録(日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -RA -210) HI管(耐衝撃性管)生産開始
2003年	ISO14001:認証登録(日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -EG -118)
2009年	嵩上げパイプ生産開始
2010年	ISO14001:クボタシーアイ株式会社とEMS統合(現、株式会社クボタケミックス)
2012年	耐候二層電線管生産開始
2015年	水道配水用ポリエチレンパイプのバット融着加工開始
2018年	水道配水用ポリエチレンパイプ生産開始

2.環境方針

ISO環境方針

クボタケミックスグループ 環境方針

クボタケミックスグループは、合成樹脂を原料として、社会生活に必要な不可欠な水道管、下水道管などのライフラインを社会に提供しています。
その活動において、地球環境の保全が人類全体の課題であり、企業にとってその対応が重要な責務である事を認識し、環境保全に不断の努力を行います。

【理念】

- ・私たちは、地球規模で持続的な発展が可能な社会の実現をめざします。
- ・私たちは、環境に配慮した企業活動・製品・技術を通じて、地球環境・地域環境の保全に配慮した企業活動を行います。

【方針】

1. 製品の設計・開発、生産、販売、物流、サービスまでのすべての段階において、環境保全に積極的に取り組みます。また、環境マネジメントシステムを導入し、自主的・具体的な目標と行動計画を定めて、日常の業務を推進し、継続的に改善する事によって、長期的で幅広い観点から環境負荷の継続的改善に努めます。
2. 社会の持続的な発展に寄与できる製品の開発ならびに製造を推進するとともに環境リスクの低減及び環境汚染の未然防止に努めます。
3. 自然環境や生物多様性に配慮した企業活動に努めます。
4. 環境関連法、条例、協定及び当社が同意したその他の要求事項を遵守し、取引先に対して、環境保全活動への理解と協力を求めます。
5. この環境方針を実践するため、環境保全中期実施計画達成に向けて、その実施状況を定期的に確認し、環境マネジメントプログラム計画の見直しを行います。
6. この環境方針を、当社で働く人、当社の為に働く人 及び 取引先に周知させると共に、各人が日常生活においても環境に配慮した行動を行うよう、環境意識の向上に努めます。
7. 地域での環境保全活動への参画、支援に積極的に取り組み、地域との共生に努めます。また、この環境方針は、私たちの姿勢を理解していただくため、一般の人にも入手可能とします。

2020年7月1日

株式会社クボタケミックス
執行役員 ものづくり本部長

西村 昌和

ISO認証取得状況

2003年	ISO14001 認証登録 (日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -EG -118)
2006年	ISO14001 更新審査及び 2004年版へ移行 (日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -EG -118)
2011年	ISO14001 クボタシーアイ株式会社(現:株式会社クボタケミックス)とEMS統合
2015年	ISO14001 更新審査
2018年	ISO14001 更新審査及び2015年版へ移行 (日本科学技術連盟:登録番号 JUSE -EG -118)

株式会社 九州クボタ化成

3.サイトデータ(2019年1月～12月の実績)

INPUT

エネルギー使用量	原油換算 KL	1,884
水使用量	万m ³	0.8

OUTPUT

エネルギー起源CO ₂ 排出量	t-CO ₂	3,854
----------------------------	-------------------	-------

排出ガス	主要ばい煙発生施設		—		
	項目	単位	規制内容	規制値	測定値
	SOx	—	ばい煙発生施設なし		
	NOx	—			
ばいじん	—				

排水量	合計量	万m ³	0.5
汚濁負荷量	COD	kg/年	—
	窒素	kg/年	—
	りん	kg/年	—

排水	放流先	項目	単位	末端排水口	
				規制値	測定値
公共用水域		pH	最小値, 最大値	—	—
		BOD	mg/l	—	—
		COD	mg/l	—	—
		窒素	mg/l	—	—
		りん	mg/l	—	—
		六価クロム	mg/l	—	—
		鉛	mg/l	—	—
		COD総量規制値	kg/日	—	—
		窒素総量規制値	kg/日	—	—
		りん総量規制値	kg/日	—	—
下水道		pH	最小値, 最大値	特定施設なし	
		BOD	mg/l		
		COD	mg/l		
		SS	mg/l		

廃棄物排出量	t	24
再資源化率	%	99.9

VOC排出量	t	—
--------	---	---

PRTR法対象物質集計結果

単位: kg/年

政令 No.	物質名称	排出量				移動量	
		大気	公共用水域	土壌	自社埋立	下水道	場外移動
239	有機スズ化合物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	403
305	鉛化合物	41	0.0	0.0	0.0	0.2	60

※ 拠点ごとの年間取扱量が1t(特定第1種は0.5t)以上の物質について集計

4.環境トピックス

1) 工場の水銀灯のLED化に続き、製品検査用の蛍光灯をLEDに更新し省エネを図りました。また副産物として明るさも増し、品質管理向上にも貢献しています。



2) 省エネ活動の一環で、VU75とVU150をモデルサイズに設定しPCを設置、生産性指標を見える化し、省エネ活動を推進しました。



3) 緊急事態訓練の手順に基づき、全従業員を対象に油漏れ及び塩素ガス発生を想定した緊急事態訓練を実施し、意識の高揚を図りました。



4) 省エネ活動では、生産性向上(能力アップ)をする事で省エネ活動を推進しています。

5) 環境リスクの見直しを継続的に実施し、リスクゼロを目指して環境活動を推進しています。

5.環境コミュニケーション

① 地域美化活動

名称 工業団地周辺の一般道路の清掃活動
日付 毎月、1回
参加人数 計12名

グリーンヒル工業団地内の企業が各社1名を派遣し、周辺の道路清掃活動を実施しています。



清掃活動の様子